

① 若者や女性、ジビエハンター等新たな捕獲の担い手の取組事例

鳥獣対策推進のための地域住民の理解醸成の取組

事例対象地：静岡県

団体：浜松地域鳥獣被害対策協議会

H P : city.hamamatsu.shizuoka.jp/

キーワード：

子ども達への普及啓発（寸劇）

教育・理解促進

1. 概要

地域の高齢化、人材不足の解消を目指し、協議会に所属する県、市、農業協同組合の職員が協働。あらゆる世代へ獣害問題を意識させることを目的として、鳥獣対策の寸劇を幼稚園で、鳥獣対策の授業を高等学校で実施し、農林業被害対策を担う人材育成を進めている。その成果は、市民の声、高校生の就職などに表れ始めている。

**2. 取組の経緯**

浜松地域鳥獣被害対策協議会では、幼少期から鳥獣による農林業被害に関心を持てる環境づくりを進め、あらゆる世代が鳥獣被害対策の意味を理解することが目指された。そして、子どもたちを通じて親世代にも伝わるのではないかと幼稚園における寸劇が考案された。また、農林系のコースのある天竜高等学校の教員から「鳥獣被害をテーマにした授業ができないか」と、市の担当職員が相談を受けたことがきっかけで高等学校での課外授業が実施された。

3. 実施体制

構成団体は、浜松市役所、県農林事務所、農林技術研究所、農業協同組合、猟友会など。次世代育成の学習活動に取り組むチームは、市役所の農業振興課が中心となっている。

4. 取組のポイント

●『幼稚園の寸劇』

①畑での収穫を楽しみにしていたところ、様々な動物たちが畑に出てきて野菜を食べてしまう。そこで子どもたちは柵を設置する。動物たちは「畑のものは食べてはいけないものだ」ということを理解し、畑に入らなくなり、山に戻って木の実を食べることにする。

➡柵の設置によって、人と動物が棲む場所を分け、共存する世界の理解をしてもらう。

②動物たちは自分の特徴や得意技を語りながら登場するので、最後の振り返りに動物クイズを行う。

➡動物の生態的特徴の理解

●『高等学校での課外授業』

・地域の生物多様性の保全や野生動物の生理生態や電気柵の仕組みの学習【座学】

・電気柵、捕獲ワナの設置体験【屋外実習】

➡鳥獣被害へ取り組みや技術を伝える機会、知る場の提供